

「甲子園 優勝目指す」 光星ナイン 本社で抱負

第105回全国高校野球選手権(8月6日開幕)に本県代表として出場する八戸学院光星高校硬式野球部が31日、青森市の東奥日報社を訪れ、2年連続12回目の県大会優勝を報告するとともに、甲子園での活躍を誓った。

同校の中村良寛校長、仲井宗基監督、小坂貫志部長と青森大会でベンチ入りした選手20人が訪問。菊地幹編集局長らと懇談した。

仲井監督は、県内最多の12回目の優勝にも「準優勝が(代替大会を含む)13回。まだ悔しさの方が上回っている」と本音を披露。今大会は厳しい試合の連続だったとし、「本県は全国レベルになったと実感した。県大会を勝ち抜いたことを自信に、昨年の仙台育英に続いて東北に優勝旗を持って帰れるように頑張る」と語った。

主将の中澤恒貴は「一

東奥日報社を訪れ、甲子園での健闘を誓った八学光星ナイン。31日午前



つでも多く勝って全国優勝を目指す」と抱負。県大会決勝では無安打だったことに触れ、「チャンスで頼りになれるよう頑張る」と力を込めた。2年生エース岡本琉奨(るい)は「3年生ともっと野球がしたいので、勝利に貢献できる投球をしたい」と意気込んだ。

一行はこの日、県庁も訪問し宮下宗一郎知事ら

に報告した。ナインは8月1日早朝、甲子園に向けて出発する。組み合わせ抽選は3日。(小橋徹)